

特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施について(報告)

1. 実施の背景

教育支援課では例年、市立小・中学校の特別支援学級の保護者会の皆さんと懇談の機会を設け、学校生活に関連した様々なご意見・ご要望をお聞きしています。ここ数年は、とりわけ小学生の保護者の方から、「毎日の登下校に対する負担軽減」や、「就学後の療育及び専門家相談の継続」を求めご要望が継続的に出されています。

そこで、別添1のとおり、現状と課題把握のためのアンケートを実施いたしました。

なお、第2次特別支援教育実施計画の取り組み項目の一つである『早期連携・早期支援の充実』においても、療育施策の充実に向けて検討することを明記しております。

2. 調査の概要

- ・調査対象 市立小学校6校の特別支援学級に在籍している児童の保護者（111世帯）
- ・実施時期 平成30年3月
- ・実施方法 在籍学級を通じて配布及び回収。
- ・有効回答 74（回答率66.7%）

3. 回答結果（別紙1）から読み取れること

<登下校について>

- ・現在通っている小学校について、「通学区域の小学校には特別支援学級がないため、他学区から通っている」と回答した家庭が半数を超えている。
- ・登校の際は、約6割の保護者が児童に付き添っている。また、約3分の1の児童が、保護者の車や自転車など徒歩以外の手段で通っている。
- ・登校の心配ごとについて、「通学路の安全面に不安がある。地域での声かけや手助けが得られにくい」との回答が最も多く、次いで「保護者（祖父母を含むご家族）による送迎の負担が大きい」、「保護者以外の人に送迎を頼んだ場合の、経済的・精神的な負担が大きい」であった。
- ・「送る手段が確保できない日に、学校を休ませねばならないことがある」と回答した方のうち、平成29年度中に実際に登校できなかった日が「年10日以上あった」児童が2人いた。
- ・要望したい登校支援として、「保護者以外の送迎利用（ファミリー・サポート）に対する補助や減免の制度」を望む回答が最も多く、次いで「信号やスクールゾーンの設定などの交通安全対策」、「当日の急な依頼にも対応してくれる有償の送迎サービス」、「学区外からの通学の場合を含め、児童だけの自力通学に対する学校の理解」であった。
- ・下校時は、「放課後等デイサービス」の利用がもっと多く、デイサービスのスタッフと下校する児童が約4割であった。
- ・下校時や放課後の過ごし方の心配ごととして、「子どもだけで下校や留守番をさせる際の安全面」との回答が最も多く、次いで「お迎えや放課後の家庭保育の負担感（仕事ができない、支障がある）」、「放課後等デイサービスの経済的な負担、プログラムに対する不満など」が続いた。
- ・要望したい放課後の支援として、「障害のある子どもでも安心して楽しく利用できる公共施設などの理解啓発」を望む回答が最も多く、次いで「保護者以外の送迎利用（ファミリー・サポート）に対する補助や減免の制度」、「放課後等デイサービスに関する、より早期からの情報提供や学校との連携」であった。

<療育について>

- ・利用中の療育プログラムとして最も多いのは、「放課後等デイサービス」であり、次いで「医療機関で受けている」が主であった。また、2割弱の保護者が、「利用したい希望はあるが、今は通っていない」と回答した。
- ・療育について要望したいこととして、「就学後も子ども未来センターなどの公共施設で療育プログラムがあると良い」との回答が最も多く、次いで「就学後も医療機関で引き続き必要な療育が受けられると良い」、「放課後等デイサービスでの療育の内容が充実すると良い」と続いた。

4. 自由意見を含めた総括

- ・特別支援学級が設置されている小学校が市内に6校（調査当時）であるため、通学区域外から通学する児童が過半数を占める実態がある。通学の距離や道路事情等にもよるが、特別支援学級の場合（特に低学年時）には必ず保護者に送迎をお願いしている学校がほとんどであり、保護者にとって時間的・体力的・経済的な負担が生じている。
- ・下校後、自宅で過ごす児童は3分の1ほどであり、多くの家庭が放課後等デイサービスや学童保育を利用しているが、子ども一人ひとりの障害の状況や課題に応じたプログラムが提供されるのか、学校とどこまで子どもの様子を共有しながら支援してもらえるのか、学年が上がっても学童保育に入所できるかどうか、より早期から情報が欲しいと考えている保護者は多い。
- ・療育に対応できる医療機関はどこも数か月先まで予約が取れない状況が続いている実態が背景にあり、「言語指導や作業訓練等の療育は未就学児しか受けられず、就学後に打ち切りになった」との自由意見も目立った。近隣には、発達支援センター等で学齢児の療育メニューを実施している自治体もあり、「子ども未来センターの機能を拡充して、直営のプログラムや、専門家の相談が受けやすくなると良い」とのご意見が多くあった。
- ・福祉や子育て、教育等の公的支援の充実と合わせ、障害のある児童が安心して安全に地域で生活するために、周囲の大人の見守りや声かけ、公共の場で過ごしやすい配慮や理解が得られるよう、市全体で周知啓発して欲しいとのご意見が多くあった。

5. アンケート実施後の取り組みについて

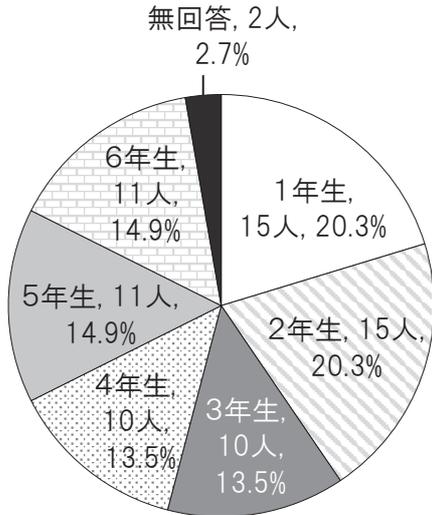
- ・集計結果については、教育部内をはじめとする庁内の関係課や、市立小・中学校の特別支援学級設置校にも送付し、特別支援学級の児童の状況や保護者からの要望を共有しました。
- ・6月に開催された特別支援学級保護者会と教育支援課との懇談会において、保護者にも結果を公開し、意見交換を行いました。保護者からは引き続き、「移動支援事業を通学にも使えるように適用範囲を拡充して欲しい」、「ファミリー・サポートの利用料について、子どもに障害がある場合、市がその一部を補助してくれる制度があると助かる」など、現行制度のさらなる充実を望むご意見が出されました。
- ・今後は、発達支援センターなどの公的機関において療育プログラムを実施している自治体があるか、対象年齢や利用料、利用人数等の状況について情報収集に努めます。

※回答者の個人が特定されないことやプライバシーに配慮する観点から、調査項目のうち、在籍している学校名や学級ごとのクロス集計、自由意見部分については非公開としています。

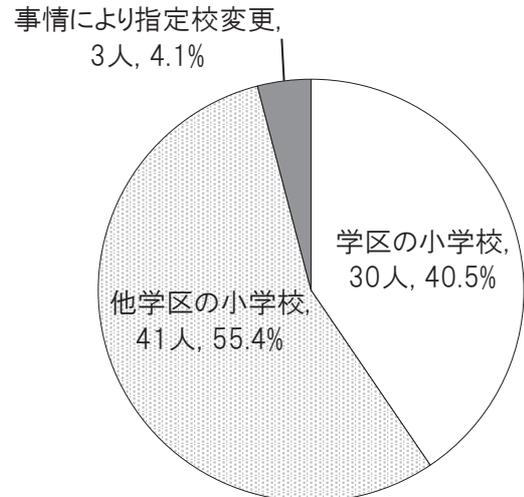
特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケート 集計結果<概要版>

別紙1

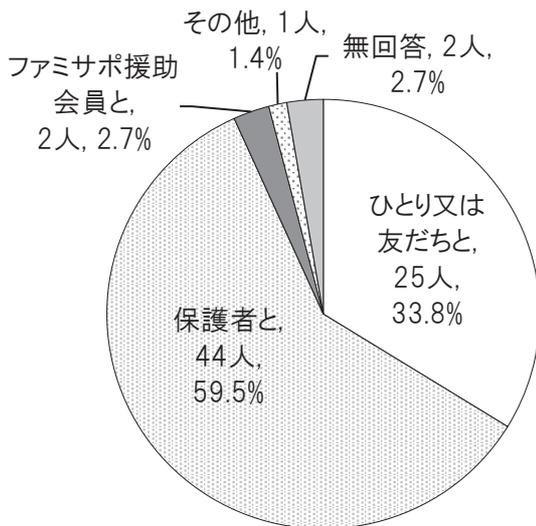
Q1. お子さんの学年は？ (n=74)



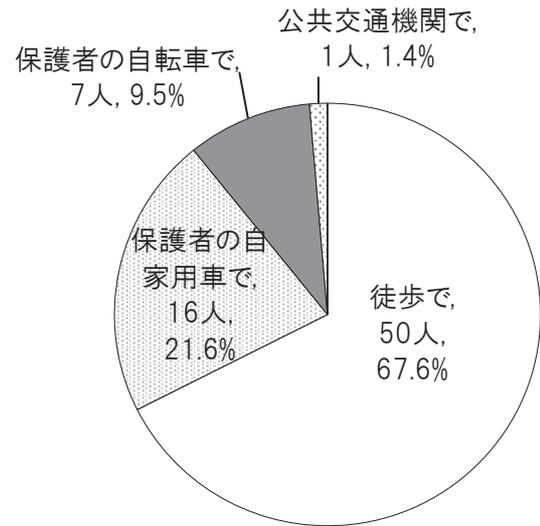
Q3. 現在の特別支援学級設置校は？ (n=74)



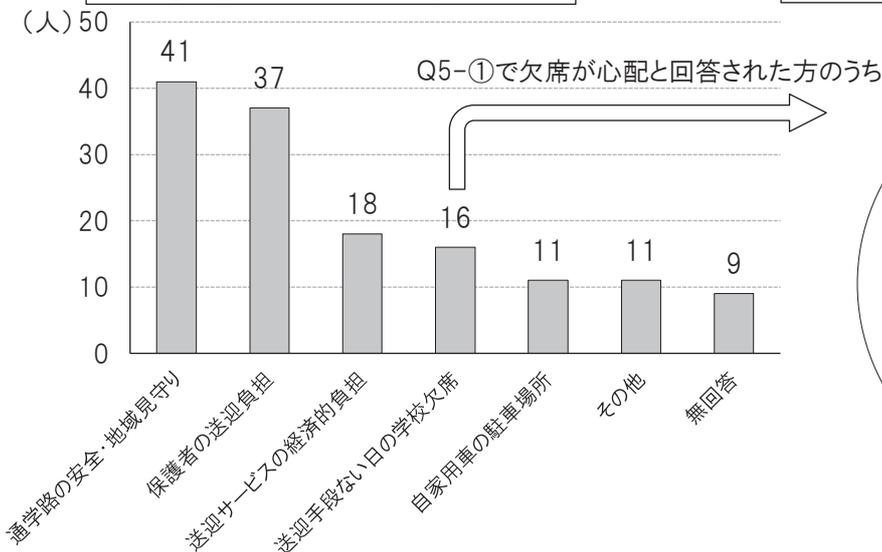
Q4-①. 登校・誰と？ (n=74)



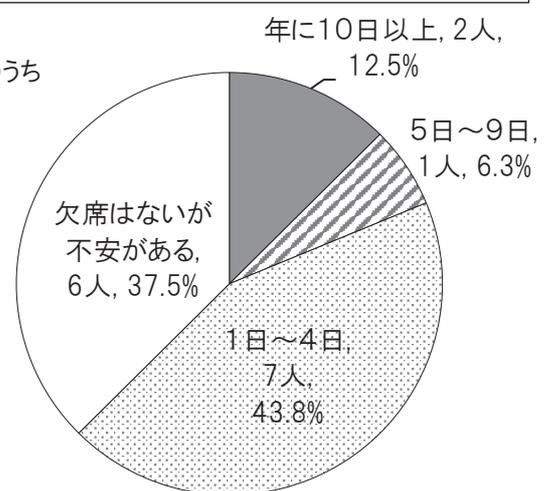
Q4-②. 登校・どうやって？ (n=74)



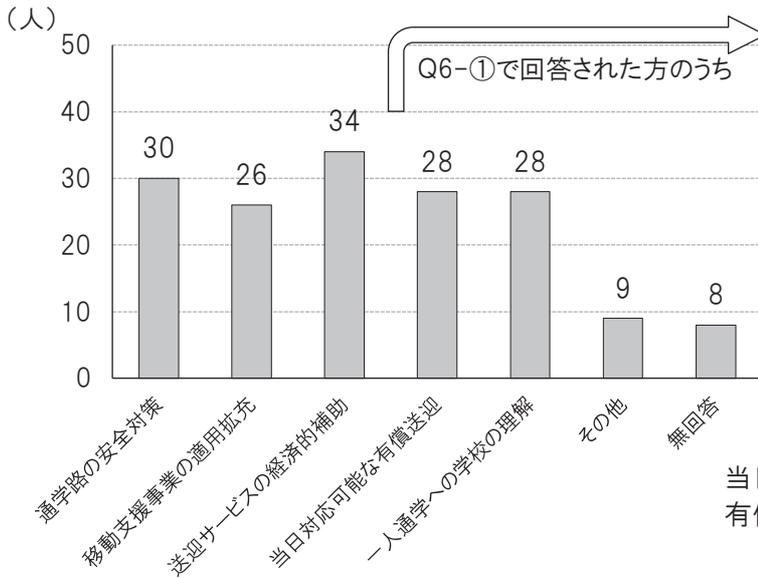
Q5-①. 登校の心配ごと(複数回答)



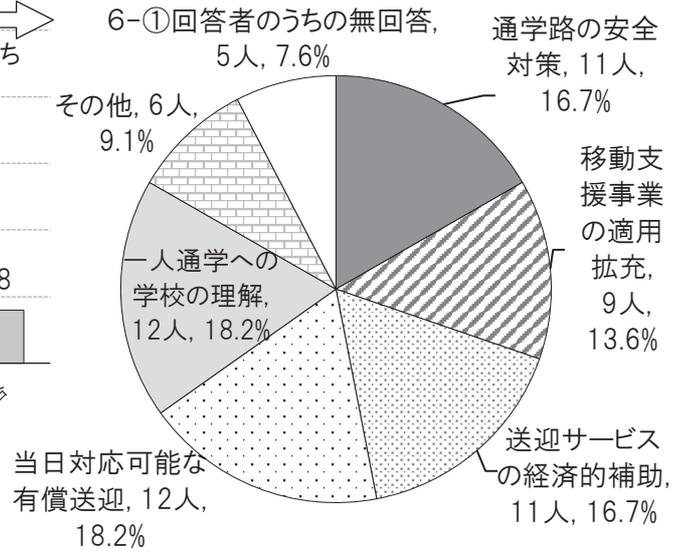
Q5-③. 実際に登校できなかった日数 (n=16)



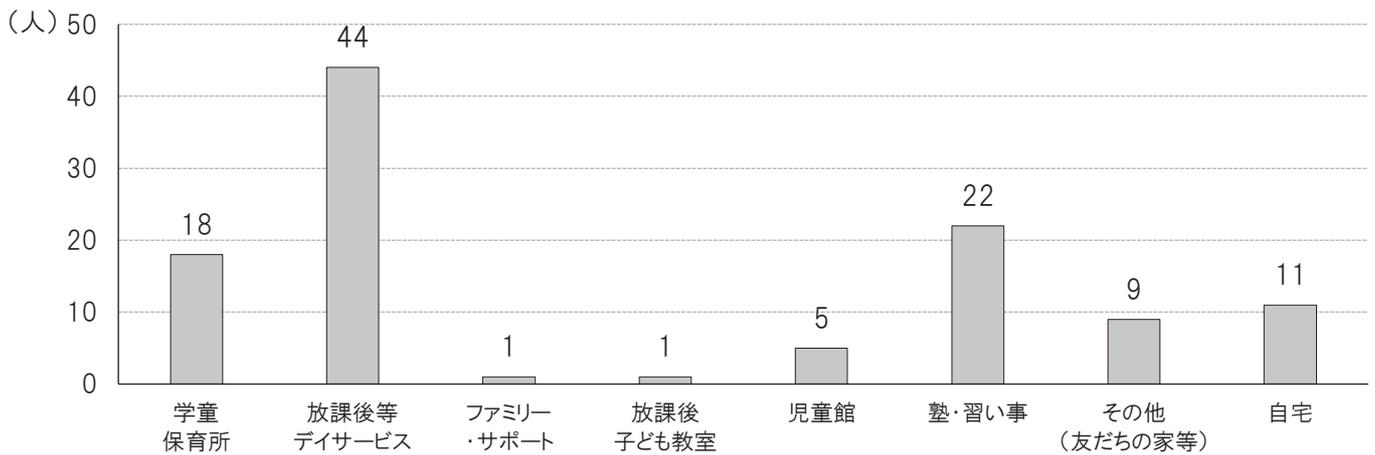
Q6-①. 要望したい登校支援（複数回答）



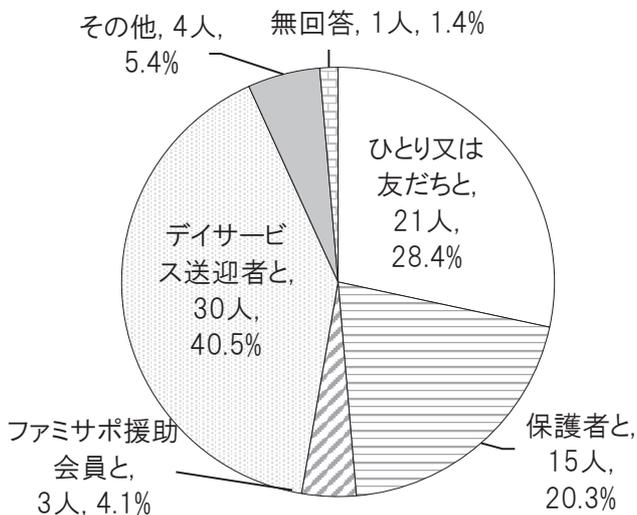
Q6-②. 最も要望したい登校支援 (n=66)



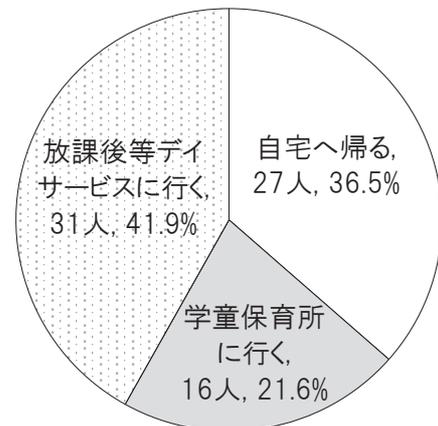
Q7-①. 下校後の過ごし場所（複数回答）



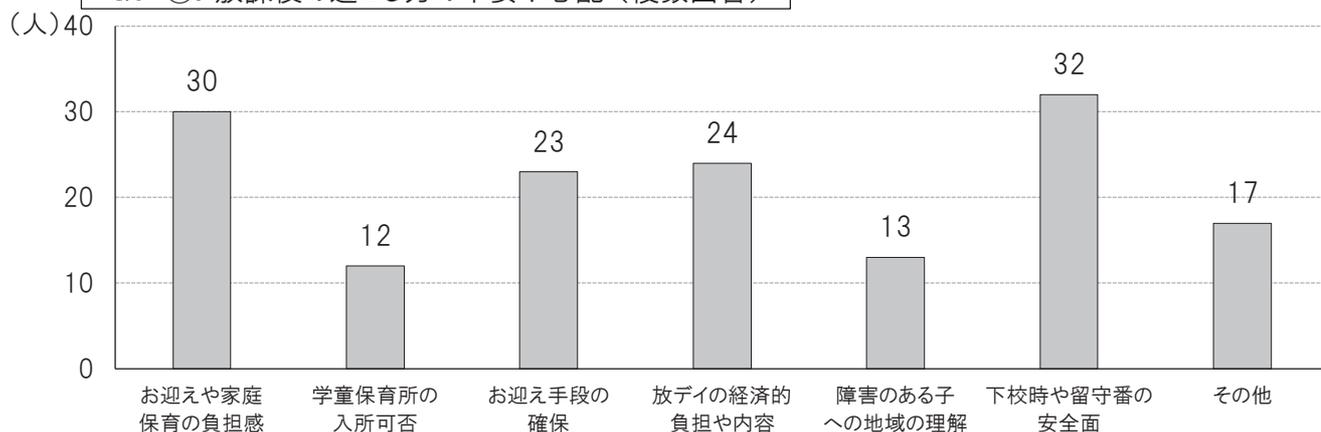
Q8-①. 下校・誰と? (n=74)



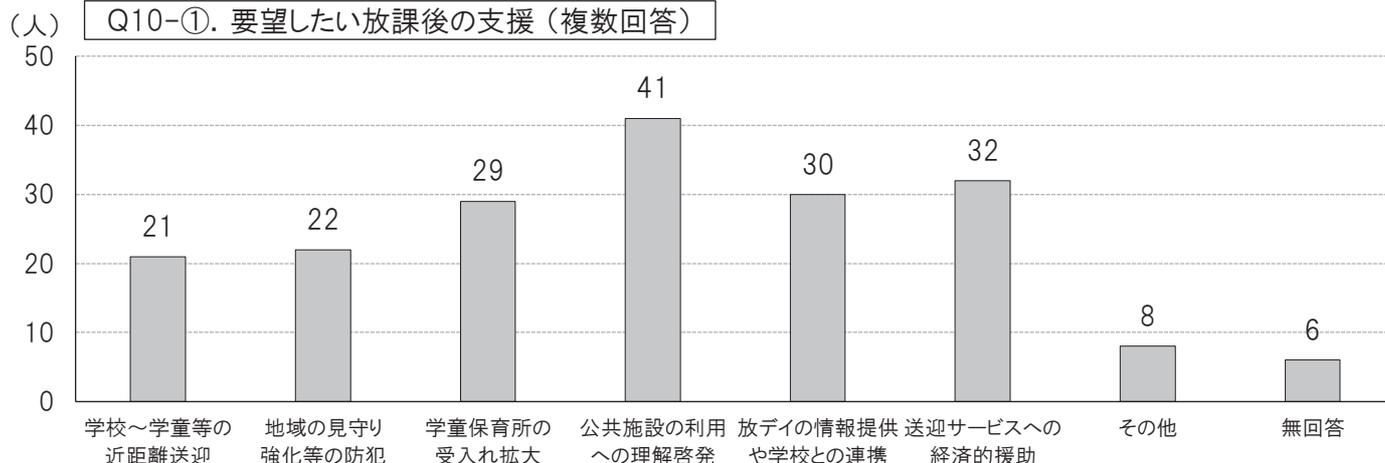
Q8-②. 下校後・どこへ? (n=74)



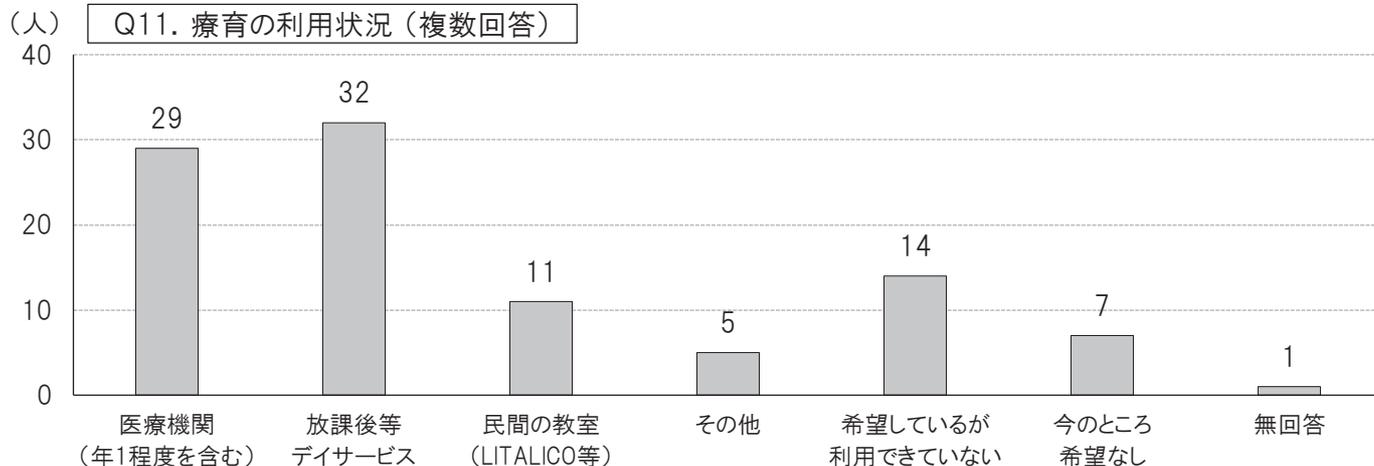
Q9-①. 放課後の過ごし方の不安や心配（複数回答）



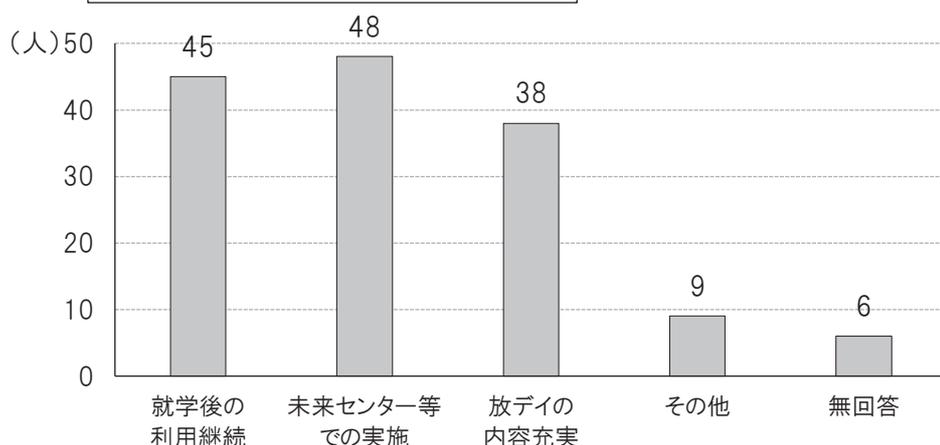
Q10-①. 要望したい放課後の支援（複数回答）



Q11. 療育の利用状況（複数回答）



Q12. 療育に関する要望（複数回答）



<調査概要>

対象：特別支援学級在籍児童の保護者(111世帯)

実施時期：平成30年3月

実施方法：在籍校を通じて配布

有効回答：74(回答率66.7%)

担当課：教育部 教育支援課

平成 30 年 3 月

市立小学校特別支援学級
保護者の皆さまへ

立川市教育委員会
教育支援課長 矢ノ口 美穂

お子さんの登下校や療育等に関するアンケートの実施について
(ご協力をお願い)

日頃より本市の教育行政にご理解・ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

例年、小・中合同保護者会の皆さまには懇談会等の場を設けていただき、さまざまなご意見をお寄せくださっている点につきましても、深く感謝いたしております。多くのご意見・ご要望の中でも、特に、毎日の登校支援や、就学後の療育についてはご不便が高く、切実なご様子をお聞きしてまいりました。

そのつど、即時の実現には課題も多く難しいとの回答をお返ししてきましたが、まずは第一歩として、特別支援学級に在籍されているお子さんのご家庭での実態を把握させていただきたく、アンケートを実施する運びとなりました。

年度末の大変にご多忙な時期とは存じますが、ご回答くださいますよう、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

1. 調査内容 別紙「お子さんの登下校や療育等に関するアンケート」
2. 回答方法 別紙のアンケート用紙に直接ご記入のうえ、学級担任の先生にお渡しください。お名前の記入は不要です。
3. 回答期限 **3月20日(火)まで**
※期間が短くて恐縮ですが、ご協力をお願いします。
4. 備考
 - 昨年6月の懇談会にてお寄せいただいたご質問・ご要望に対する文書での回答にお時間をいただいております。誠に申し訳ありません。今月19日(月)の週には平成30年度予算が確定いたしますので、可能な範囲で新年度の展望(学校改修の予定など)を追記し、送付させていただきます。
 - 回答の選択肢は、これまでにお寄せいただいたご意見を参考に構成していますが、実態を網羅しきれていないものもございます。当てはまらない場合は、お手数ですが、「その他」欄にご記入ください。
 - 本アンケートは個人を特定できない形で集計するため、個別の回答を必要とするご質問にはお答えできません。あしからずご了承ください。

本アンケートに関するお問い合わせ先

立川市教育委員会 教育支援課 電話：042-527-6171 (担当:矢ノ口)
立川市錦町3-2-26 子ども未来センター1階/受付時間:月～金曜(祝日を除く)9時～17時

Q 6-1. 登校を支援するうえで、要望したいことはどんなことですか？（複数回答可）

- ① 信号やスクールゾーンの設置などの交通安全対策
- ② 移動支援事業の適用範囲や利用時間数の拡充
- ③ 保護者以外の送迎利用（ファミリー・サポート）に対する補助や減免の制度
- ④ 当日の急な依頼にも対応してくれる有償の送迎サービス
- ⑤ 学区外からの通学の場合を含め、児童だけの自力通学に対する学校の理解
- ⑥ その他（ ）

Q 6-2. Q6-1 のご回答のうち、最も要望したいことはどれですか？

上記①～⑥の番号のうち1つをお選びください。

● 下校時および下校後の過ごし方について

Q 7-1. 放課後に利用しているサービスや過ごし場所をお答えください。（複数回答可）

- ① 学童保育所
- ② 放課後等デイサービス
- ③ ファミリー・サポート
- ④ 放課後子ども教室
- ⑤ 児童館
- ⑥ 塾・習いごと
- ⑦ その他（ ）
- ⑧ 特に利用しているものはない

Q 7-2. Q7-1 で①～⑦の複数を選択された方におたずねします。

平日5日間のうち、最も多い過ごし場所はどれですか？

上記①～⑦の番号のうち1つをお選びください。

Q 8. 下校時の最も多いパターンを①と②から、それぞれ1つずつお答えください。

◎「学年とともに変わってきた」という場合は、今年度の状況についてお聞かせください。

①下校時は誰と

- ひとり又は同じ学校の友だちと
- 保護者（父・母・祖父・祖母）と
- ファミリー・サポートの援助会員さんと
- デイサービスのお迎えのスタッフと
- その他（ ）

②どこへ

- 自宅へ帰る
- 学童保育所に行く
- 援助会員さんのお宅に行く
- 放課後等デイサービスに行く
- 放課後子ども教室に参加する
- その他（ ）

Q 9-1. 下校時および放課後の過ごし方について、ご心配なこと・困っていることはどんな点ですか？（複数回答可）

- ① お迎えや放課後の家庭保育の負担感…仕事ができない、仕事に支障があるなど
- ② 学童保育所…希望の学童に入れなかった、入れなくなる不安があるなど
- ③ 保護者以外のお迎え者の確保…探す手間、経済的・精神的な負担など
- ④ 放課後等デイサービス…経済的な負担、プログラムに対する不満など
- ⑤ 児童館や放課後子ども教室…障害のある子の利用についての理解など
- ⑥ 子どもだけで下校や留守番をさせる際の安全面などの不安
- ⑦ その他（ ）

Q9-2. Q9-1のご回答のうち、最も困っていることはどれですか？

上記①～⑦の番号のうち1つをお選びください。

Q10-1. 下校時および放課後の過ごし方を支援するうえで、要望したい対策はどんなことですか？（複数回答可）

- ① 学校と学童保育所の間など、ちょっとした時間・距離の送迎支援
- ② 地域の見守り強化や、何かあった時に駆け込めるお宅を増やすなどの防犯対策
- ③ 学童保育所の受け入れ枠の確保や拡充
- ④ 障害のある子どもでも安心して楽しく利用できる公共施設などの理解啓発
- ⑤ 放課後等デイサービスに関する、より早期からの情報提供や学校との連携
- ⑥ 保護者以外の送迎利用（ファミリー・サポート）に対する補助や減免の制度
- ⑦ その他（ ）

Q10-2. Q10-1のご回答のうち、最も要望したいことはどれですか？

上記①～⑦の番号のうち1つをお選びください。

● お子さんの療育について

Q11. お子さんは現在、言葉や身体機能のトレーニングなどの療育プログラムを受けていらっしゃるでしょうか？差し支えない範囲でお答えください。（複数回答可）

- 医療機関で受けている（頻度や内容など ）
- 放課後等デイサービスに通っている（ ____か所／週 ____日）
- 民間の教室（リタリコなど）に通っている（ ____か所／週 ____日）
- その他（ ）
- 利用したい希望はあるが、今は通っていない
- 利用の希望は特にない

Q12. お子さんの療育について、要望したい点はどんなことですか？（複数回答可）

- ① 就学後も医療機関で引き続き必要な療育が受けられると良い
- ② 就学後も子ども未来センターなどの公共施設で療育プログラムがあると良い
- ③ 放課後等デイサービスでの療育の内容が充実すると良い
- ④ その他（ ）

● その他一般的に

Q13. 登下校支援や療育について、市へのご要望などがあればお書きください。

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、**3月20日（火）**までに担任の先生にお渡しください。
なお、集計結果は合同保護者会の皆さまにご報告するとともに、今後の市の施策の参考とさせていただきます。